

QS シンポジウム「大学のグローバル化戦略の実現に向けて」@大阪大学
2015年7月16日

大阪大学のグローバル化の取組

主に研究力強化について

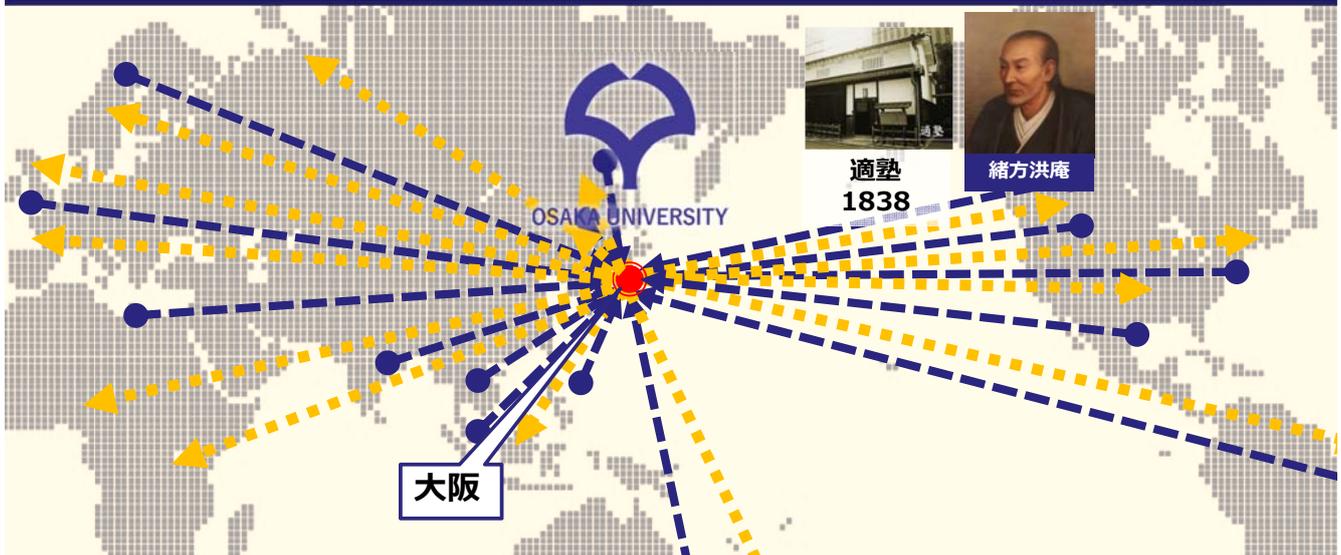
相本三郎, 理事・副学長 (基盤研究担当)

池田雅夫, 副学長 (URA担当)

1

“適塾” から “世界適塾” へ 学問による調和ある多様性の創造

世界から優れた学生と研究者が集まり、多様性のもとで、
切磋琢磨する場



世界に飛び立ち、
調和ある多様性の創造の趣旨で、心豊かな社会の実現に貢献

2

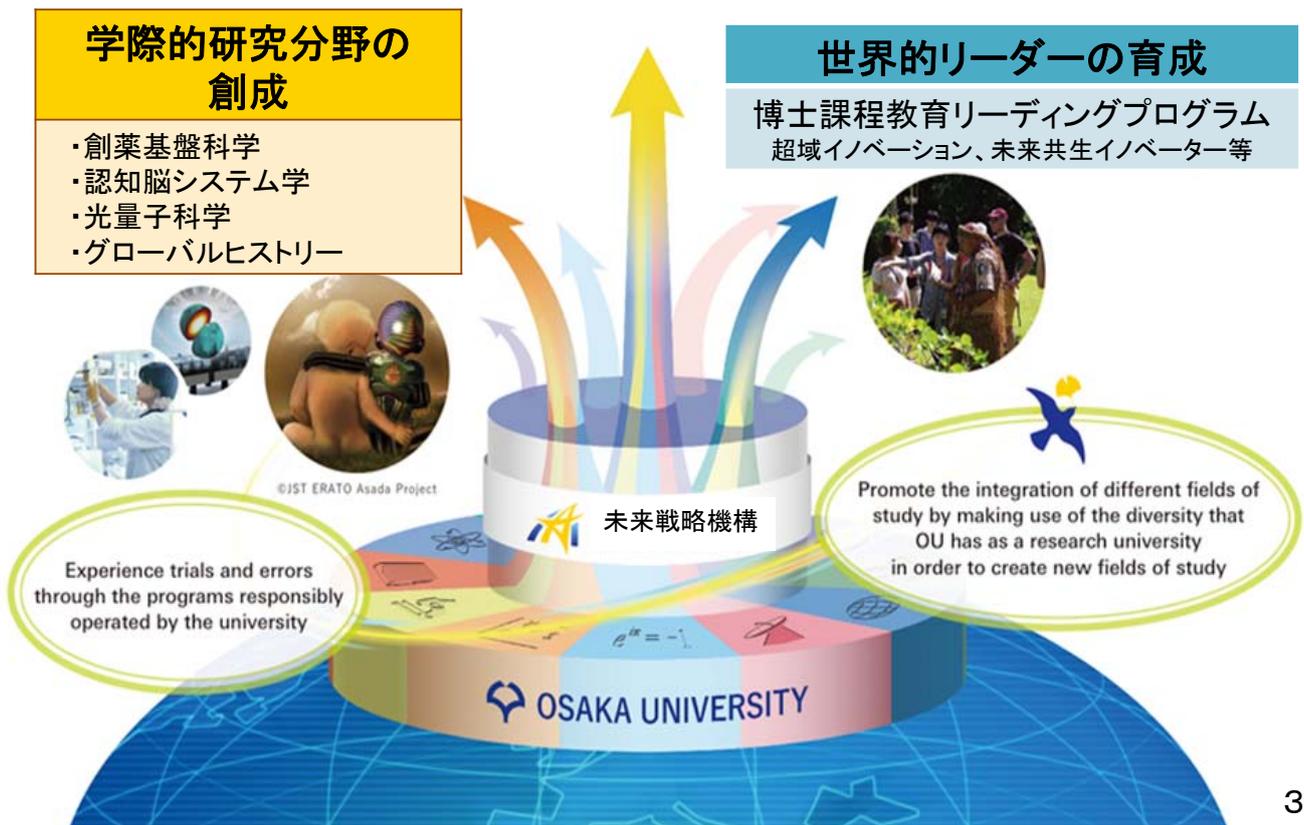
未来戦略機構

学際的研究分野の創成

- ・創薬基盤科学
- ・認知脳システム学
- ・光量子科学
- ・グローバルヒストリー

世界的リーダーの育成

博士課程教育リーディングプログラム
超域イノベーション、未来共生イノベーター等



3

研究力強化とグローバル化のためのプログラム

□ 国際共同研究促進プログラム

最先端の研究を展開している外国人研究者とそのグループを本学に招へいし、本学の研究者と共同研究を実施する。**国際ジョイントラボ**

□ 未来研究イニシアティブ・グループ支援

大阪大学ならではの基礎研究の推進や、国家的課題解決に向けた研究にイニシアティブを発揮するための**新たな研究分野の創出**を目的とする。

□ 未来知創造プログラム

若手研究者が連携する「学内共同研究の仕組みづくり」を支援することにより、本学の将来を支える多様な研究を育み、創造性に富んだ、チャレンジングで独創的なアイデアと**未来を拓く人材を輩出**することを目的とする。

□ 海外への研究者派遣プログラム／海外からの研究者受入れプログラム

国際共著論文の執筆や将来の国際ジョイントラボの設置など、今後の展開が期待できる派遣／受入れ計画を支援することにより、本学における**国際共同研究の機会を増加**させ、研究力強化に資することを目的とする。

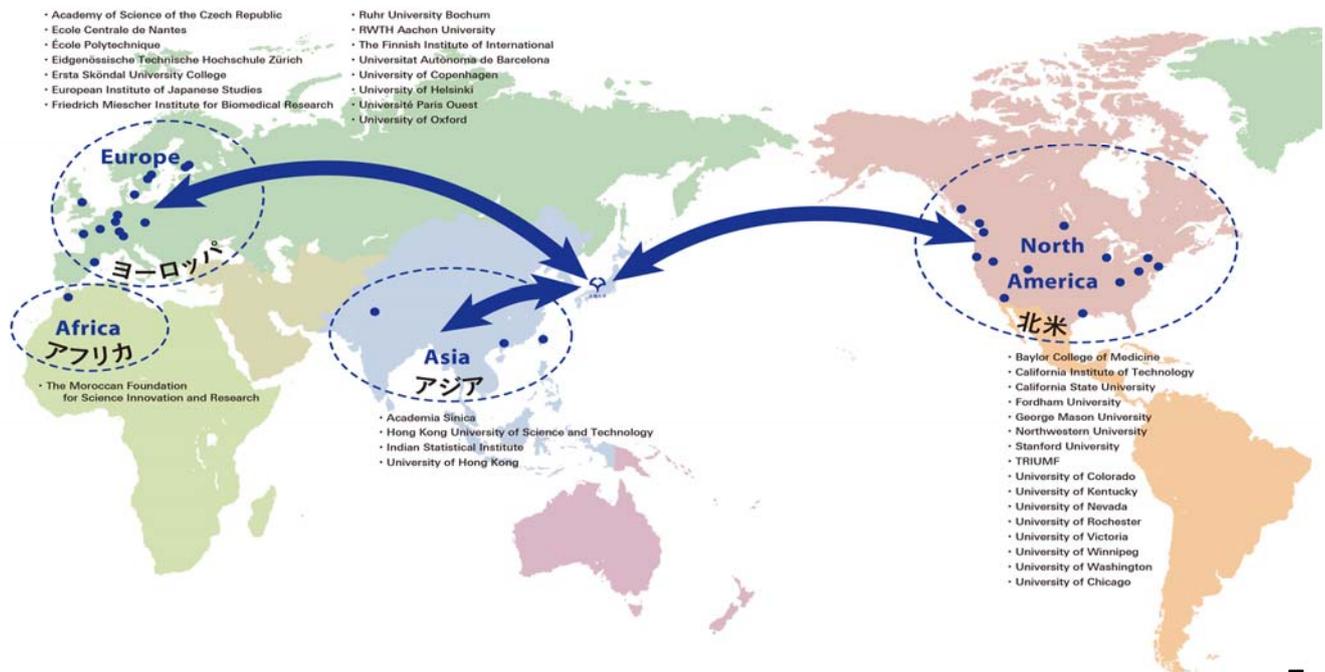
□ 部局国際シンポジウム等開催支援

本学の更なる国際化を促進するため、学術研究の成果、研究者の活動を広く海外に発信し、海外における**本学のプレゼンス向上**が期待できるような国際シンポジウム等を主催する部局に対し、開催に係る経費を支援する。

4

国際共同研究促進プログラム

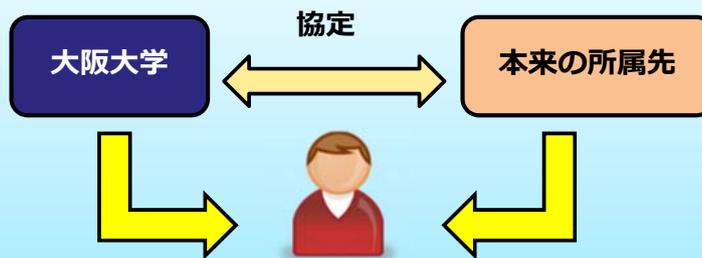
2015年7月現在、34の国際ジョイントラボ
目標は100ラボ



5

クロス・アポイントメント制度 (柔軟な人事制度)

X 博士は複数の機関に正規のポジションをもつ。勤務割合は2機関の間の協定に基づく。



X 博士は大阪大学で (100-A)%勤務する。

Dr. X

X 博士は本来の所属先で A%勤務する。

現状に期待される効果

- X博士は、本来の所属先に正規のポジションを確保しながら、大阪大学においても正規のポジションで働くことができる。
- 大阪大学は優秀な人材を得ることによって、教育研究活動を飛躍的に増進させることができる。
- 将来、新たな形の産学連携も可能になる。

協定数

2015年7月現在、14の国・地域の31機関と協定を締結
クロス・アポイントメントにより、37名が大阪大学で勤務している。

6

外国人博士課程学生に対する特別支援

- ◆ 大阪大学で博士号を取得した留学生を、博士課程修了直後の一定期間（基本的には1年）雇用する。その学生が同じテーマで研究を継続し、更に進展させることができるとともに、研究者としてのキャリア開始の支援になる。大阪大学にとっても研究環境のグローバル化に寄与する。
 - 2015年4月、17名を雇用
 - 9つの国・地域より
韓国、中国、台湾、フィリピン、マレーシア、ベトナム、ブルガリア、エジプト、ブラジル
 - 2015年10月、9月修了予定者の中から27名を雇用する予定

- 短期的メリット：研究者のグローバル化と多様化
- 長期的メリット：大阪大学の将来のパーマネント研究者の一つの供給源
母国で職を得た場合は、クロス・アポイントメント制度により、大阪大学の研究者にもなる可能性がある。

7

リサーチ・アドミニストレーター(URA)による研究支援

- ◆ 個々の研究者に対して、競争的研究資金の獲得を、その資金の種類に応じて個別支援
- ◆ 日本学術振興会(JSPS)や科学技術振興機構(JST)の競争的研究資金に関する公募前情報の収集や説明会開催による情報提供など
- ◆ 若手研究者に対する申請書の書き方と面接審査に対するアドバイスや、経験ある研究者に対する模擬ヒヤリングの実施など
- ◆ 大学として申請する大型の競争的資金に関する情報収集、申請書作成、採択後の運営など
- ◆ インスティテューショナル・リサーチ(IR)によって大学の強みと弱みを把握し、大学ランキングにも対応
- ◆ URAは研究力強化に向けて無くてはならない存在
- ◆ URAの統括マネージャーは副学長に指名されている。

8

QSランキングにおける大阪大学

大阪大学					
	2011	2012	2013	2014	2015
QS世界ランキング	45 (3)	50 (3)	55 (3)	55 (3)	未発表
QSアジアランキング	8 (3)	11 (3)	15 (4)	13 (3)	13 (2)

() : in Japan

QS 領域別世界ランキング2015 大阪大学			
化学	19 (3)	現代言語	51-100
生物科学	38 (3)	計算機科学・情報システム	
化学工学	39 (4)	電気・電子工学	
歯学	44 (2)	機械・航空・生産工学	
物理学・天文学	45 (5)	医学	
材料科学	46 (5)	薬学・薬理学	

() : in Japan

(領域数36)

9

トムソン・ロイター社による Highly Cited Researchers 2014

分類 (全体で21)	大阪大学	東京大学	理研	京都大学	東北大学	日本全体
生物学・生化学	2	1		2		6
化学	2			1		4
臨床医学	3					4
工学						3
地球科学						2
免疫学	6	4		2		19
材料科学	1	1			2	8
数学						1
微生物学		1				1
分子生物学・遺伝学		1				1
薬理学・毒物学		1	1			5
物理学	1	5	1	1	2	14
植物学・動物学	1	3	8	1	3	26
宇宙科学		3				5
合計	16	20	10	7	7	99

※1 Highly Cited Researcher 2014 とは Thomson Reuters 社による2002~2012年の間に Highly Cited Papers (Top1%論文) を数多く発表した研究者

※2 大阪大学では審良静男教授が3分類(生物学・生化学、臨床医学、免疫学)で選出されており延べ16名(実質14名)

ランキングについて

注意

1. 大学ランキングは、大学のいくつか側面を表しているのであって、全体を表しているわけではない。
2. いくつかのランキングについては、その計算方法が十分に公開されているわけではない。また、時々、説得力のある説明なしに変更される。
3. 学生や研究者の中には、大学ランキングを参考に大学選びをする人たちがいる。その人たちを無視できない。

期待

1. 大阪大学における研究力強化の取組は質の高い論文を多数生むことに貢献するであろう。
2. 質の高い多数の論文は、大学の評判を良くするとともに、論文引用数を増やすと考えられる。
3. 大学に対する良い評判と論文引用数の増加は、大学ランキングのスコアを上げると考えられる。